上智大学 イスラーム研究センター
Center for Islamic Studies, Sophia University

〒102-8554
東京都千代田区紀尾井町 7-1（市ヶ谷キャンパス）
上智大学 イスラーム研究センター
Center for Islamic Studies at Sophia University
7-1 Kioi-sho, Chiyoda-ku, Tokyo 102-8554 Japan
Tel: +81-3-3238-4073
Fax: +81-3-3238-4074
E-mail: ias-iac@sophia.ac.jp

私は、中央アジア（とくにウズベキスタン）を専門地域としている人類学者・地域研究者です。2019 年 12 月に、ウズベキスタンの研究者 2 名と共同で *Guli Armug'on: Women's Local Islamic Ritual in Uzbekistan* と題した民族誌映画（英語）を制作しました。「民族誌映画」とは、人類学の一分野たる映像人類学における研究成果を指します。本作は、より具体的に言えば、上智大学総合グローバル学部の赤堀雅幸教授が研究代表者を務める「イスラームおよびキリスト教の聖者・聖遺物崇敬の人類学的研究」と、私が研究代表者を務める「現代中央アジアのタサウウフをめぐる人類学的研究――スーフィー詩への注目から」という 2 つの科研の研究課題の成果として制作されました。また、本作は 2020 年 10 月にマケドニアで催された第 9 回国際民族誌映画祭「クラトヴォ 2020」（9th International Festival of Ethnological Film "KRATOVO 2020"）および 2021 年 3 月にオンラインで催された第 17 回英国王立人類学民族誌映画祭 2021（17th Royal Anthropological Institute Film Festival 2021）、また、来る 9 月にウクライナで開催予定の国際民族誌映画祭「OKO 2021」（International Ethnographic Film Festival OKO 2021）および 11 月にメキシコで開催される国際人類学民族科学連合 2021（ユカタン）先住民・民族誌映画展（Indigenous and Ethnographic Film Exhibition of the Congress of the International Union of Anthropological and Ethnological Sciences (IUAES) 2021 in Yucatán）に入選し、上映される機会を得ました。

本作では、ウズベキスタン東部フェルガナ盆地のボルバンリク村において、ウズベク人とタジク人の女性たち間で行われている聖者崇敬の慣行を取り上げています。この村には「ドースティ・フダー」（神の友）と呼ばれるイスラーム聖者の廟があり、毎年 3～4 月になるとこの廟の周囲に植えられた「グリ・アルムガーン」と呼ばれるアフガン・ハナズオウが美しいピンク色の花を咲かせます。この花の開花を春の到来とみなし、また生命（樹木）を死なせ、のちに蘇らせる自然の力に畏敬の念を抱き、これを祝うことが伝統的な慣わしとなったとされます。一方、この儀礼の名称も「グリ・アルムガーン」です。この花の美しさが女性に喩えられることから、グリ・アルムガーンは女性の儀礼になったと考えられています。また、アフガン・ハナズオウは国内でこの廟以外では育たないと語られます。それゆえ、人々はイスラーム聖者ドースティ・フダーには神に授けられた特別な力があるとみなし、この聖者に畏敬の念を抱いてもいるのです。本作は、この儀礼の様子の紹介をとおして、現代ウズベキスタンにおける聖者崇敬のあり方を生き生きと伝えると同時に、言語と民族を異にする女性たち（ウズベク人とタジク人）がイスラームの名の下で統合され、共存しているその姿を記録することをも目的としています。加えて、映像人類学の分野では中央アジアを地域対象とした作品が極端に不足していることから、本作がこうした研究の状況に少しでも貢献するものになることを期待してもいます。本作を御笑覧頂けましたら、幸いです。

敬具

2021 年 7 月吉日

和崎 聖日
（中部大学人文学部）